



2013.8.1.

Tel 080-3451-8400

E-mail hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

例会の報告

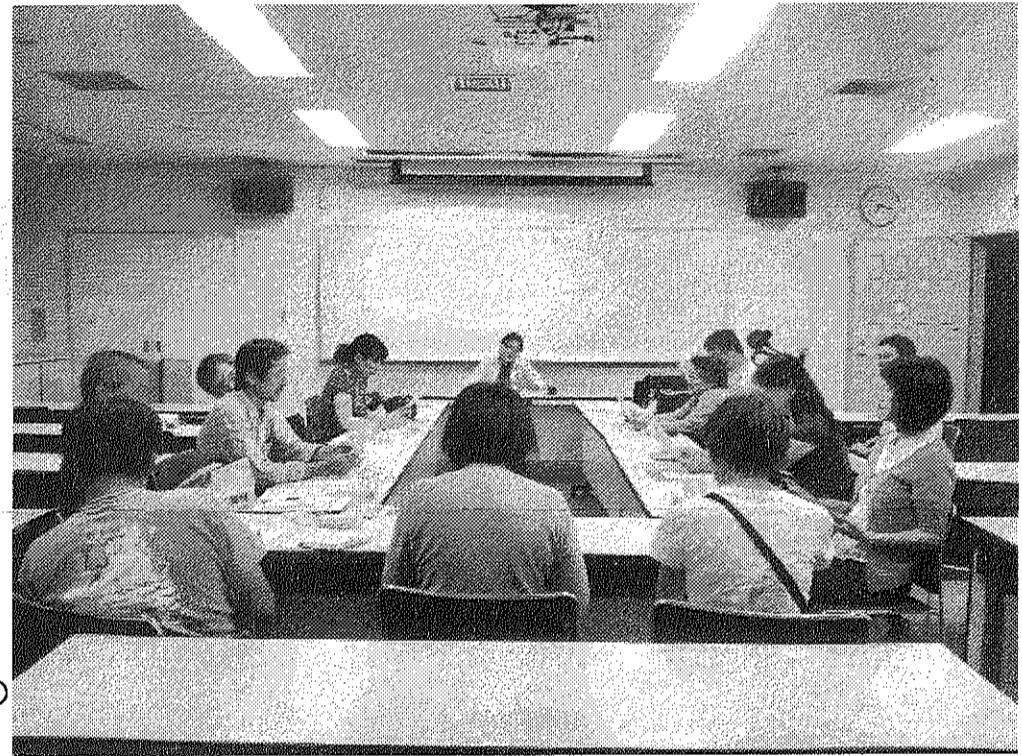
7月18日の例会では、「多摩草むらの会」の松岡さんから、団体のあゆみと支援法に移行してからの事業展開について報告して頂きました。

草むらの会は1997年に発足後し、グループホームや共同作業所中心の生活支援をメインとしてきましたが、支援法施行に伴い2010年に就労継続B型「夢うさぎ」を開始後、農作物生産・弁当製造・雑貨小物製造/販売等の新事業を次々と展開をしてきました。

現在では、就労継続B型8カ所、相談支援1カ所と規模を拡大。その背景には、寒天を使ったヒット商品が生まれた事や多摩センターに空き物件が増え出店が容易になった事や、2012年3月には「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞において審査委員会特別賞を受賞した事も関連しているようです。“振り返ってみれば仕事でも何でも楽しむ事や遊び心を大切に取組んできた事が今に繋がっている”と説明があり、各参加者はそのマンパワーと活気に驚かされました。

質疑応答では、登録者の数や職員体制、経理などの運営面に関する質問が多く挙がると、“地域と一緒に、知識や経験のある有能な人々を巻き込みながら事業を広げてきた事で様々な問題を解決してきた”経緯が詳しく話されました。

今回、第一弾の試みとして行った活動報告ですが、ここ数年の間に、事業の見直しや合併、大きな転換を果たした団体が幾つも存在している今、日々の業務に追われるなかで、身近な同業者の活動内容に対して、最近の様子さえも知り得てないことに気付かされた良い機会となりました。



また、例会への参加者も少しずつ増えている事から、他の事業所の活動を初めて聞くという方も多かったかと思われます。そういった点からも、今回の企画は市内の資源を知る、よいきっかけとなったのではないかと思います。

<文責：川出>

事務局通信 VOL.2

この欄では、各月の例会での報告事項を中心に事務局の動きをお伝えしています。

今回は特に重要な報告等はありませんが、一つだけ去る7月4日に運営委員会として、今年度新任で移動して来られた市健康福祉部の豊田聡高齢者障害者担当部長と古川由美子障害者福祉課長との顔合わせを行いました。

実はこうした試みは初めてですが、近年「八王子市障害者地域自立支援協議会」を初め、市行政に当事者組織として参画する機会が増えており、その関係性にも大きな変化が生まれていることから、まずは顔を覚えて頂く機会として今回は行いました。

前任の細井東課長は以前福祉部に在籍していて、五年間もその任にいましたが、古川課長は本人曰く「福祉初心者」ということですが、前所属課は市の基本計画を作成する総合政策部政策審議室でしたので、まるっきり素人でもないと言えます。また、豊田部長も何年か以前は福祉総務課長として地域保健福祉計画の作成の中心を担っていた方です。

同時に今年度は福祉部の約半数が移動し、窓口の陣容も大きく入れ替わっています。

そういったことがどう現場に影響してくるのか、八障連としても興味を持って注視していく必要があるかも知れません。

<文責／豊田>

八障連 8 月例会のお知らせ
「麦の会」の課題とこれから…

残暑お見舞い申し上げます。例年にない猛暑の毎日が続いていますが、各団体どのような日々をお過ごしでしょうか。

八障連では、今年度より例会の場を使って、加盟各団体・事業所の現状報告会を計画しています。これは、ここ数年で各団体・事業所が法内移行を進め、それぞれの状況が掴みにくなっている現状を踏まえ、ようやくほとんどの団体・事業所が移行を終えたところで、確認作業も含めてお話しをして頂く機会を持つことにしました。

先月は初回として「多摩草むらの会」の松岡都さんに、ここ最近の状況等をお聞きし、出席者からは大変好評が得られました。

今後も継続が確認され、今回は「麦の会」の佐竹啓子さんにお話しを伺うことになりました。麦の会は、中野山王周辺の知的障害当事者が通う事業所で、地域デイからの法内移行ということで、資金等で大変な苦労を重ね、現状でもギリギリの運営状況にある事業所のひとつです。各団体共感できるお話しも多く聞けるのではないかと思います。

お盆明けの時季に当たりお忙しい中とは思いますが、ぜひ当日は会場へ足をお運び下さい。

日時 2013年8月22日(木) 18:00~20:00 **会場** あつとほうむ

*今回はクリエイトホールが当日イベントで全館使用不可の為、明神町の「あつとほうむ」での開催となりました。場所がわからない方は事務局までご確認ください。


連載コラム 『日々のなかから、、、』 vol.22
事務局長 杉浦 貢


今回は少し重いテーマです。

はたして、『自分の障害をどう認識して生きるか』ということは、自分自身が障害を持つ当事者にとって一生の課題だと思います。出生前もしくは出生後すぐに障害を持って生活してきた人。怪我や病気、加齢に伴う体調の変化によって、あとから障害を持った人。いろいろな背景があるかと思われそうですが、また、その人その人の細かい事情、一人ひとりの心情によっても十人十色どころか千差万別であると思います。

この場を借りて、あえて杉浦個人の考え方を述べさせていただくならば、私としては、『障害を持って生きるということは、冷静に、客観的事実として見るならば、別に良いことでも悪い事でもないのではないか』ということです。

先天的に障害を持ったにしろ、後天的に障害を持ったにしろ、一度我が身に起こってしまった現象は元には戻せません。病院でのリハビリやお薬の処方、高度な手術、家庭での生活の工夫や改善によって、いくらか症状を抑えていくことはできますが、完全に障害のない暮らしを送ることは不可能です。治らないからこそ障害なのであり、治す方法が見つかればそれは、病気と呼ばれることとなります。我が身の上になんかに信じられない、信じたくないことが起こっても事実は事実であり、それ以上でもそれ以下でもありません。

これを書いている私自身でさえ実践していくのはとても難しいのですが『自分の身体や心の在り様を、いい面も悪い面も、そのまま自分の個性(事実)として受け入れる』というのはとても大事なことですよね。

杉浦的にイヤだなと思うのは、『障害は個性。個性は尊重されるべき、主張するものこそがエライ』と、ことさらに声を大にして語る人です。自分が個性を主張したいように、周りの人にも主張したい個性(人格や尊厳といったもの)があり、他の人を押し退けて無視してまで通す個性は、単なるワガママだと思います。

無論、本当に言いたいことがあるなら、周りを気にせずはっきりと言うべきですが、それも相手の主張(個性)も同じようにしっかり受け止めてからにすべきです。

何が言いたいかといえば、個性とは、それが障害そのもののことであれ、個人の人格や尊厳を指している場合であれ、自分の内側、自身の心、気持ちの在り様こそが大切なのであり、外に向かって必要以上に喚き散らしたり、わざとらしくひけらかしたりするものではないと考えています。もちろん、困ったときや悩んでいるときに、誰かに助けを求めることは恥ずかしいことではないし、障害があることは、不便で不自由ではあるけれど 必ずしも不幸ではないのだし、本当にそれが必要な場合なら、臆せず堂々と個性(障害)を前に出して支援を受けるべきです。主張しすぎず、さりとして無言でもない。極端に走らず、常に真ん中の道を探すのが一番良いのではないかと考えています。

この原稿は、特にこれから自分の道を探そうとしている若い利用者さんたちや、利用者さんと関わってまだ日が浅い支援者さんたちを意識して書いています。次回に続きます。次も読んでくれたら嬉しいです。

今後のスケジュール

8月 22日 (木)	例会	18時~20時	あつとほうむ 明神町
8月 29日 (木)	運営委員会	18時~20時	クリエイトホール 第1学習室
9月 3日 (火)	対市予算交渉	18時~20時	八王子市役所801会議室(8階)